17A23358A

日立 ふろ自動給湯型 電気温水器

セミオートタイプ【高圧力型】

工事説明書

据付場所	形式名	貯湯量	満水時質量	ヒーター容量
屋外・屋内兼用	BE-A37EWU(高圧力型)	370 L	約 433kg	4.4kW
	BE-A46EWU(高圧力型)	460 L	約 534kg	5.4kW
	BE-A56EWU(高圧力型)	560 L	約 644kg	6.4kW

●標準仕様は「ドレンパン不付」です。
ドレンパン付仕様（受注生産品）の場合は「内蔵」となります。
●事業者の方が設置される場合
当該機器は労働安全衛生法施行令に定める小型ボイラーに該当します。このため、事業者の方が設置される場合は、所轄の労働基準監督署へ設置届の提出が義務付けられております。

安全上のご注意

⚠ 警告

「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。

- ● アース工事(D種設置工事)を必ず行う。
  工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規定」に従って、電気工事士が行う。
  (感電、故障の原因になります。)
- ● 機器の近くにガス類や引火物を置かないでください。
  (発火の原因になることがあります。)
- ● 漏電遮断器の動作を確認してください。
  (万一の不動作で、感電、故障の原因になります。)
- ● シャワー給湯には、必ずサーモスタット式の逆止弁付湯水混合栓を使用する。
  万一の機器の故障時に、やけどのおそれがあります。

⚠ 注意

「重傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

- ● 防水処理、排水処理をしていない床面に設置しない。
  万一の漏水のときに大きな被害をおよぼすおそれがあります。
- ● 凍結防止対策を行ってください。
  (凍結による故障の原因になります。)
- ● 電気温水器本体の脚３か所を必ずアンカーボルトで固定する。
  (地震などにより、転倒してけがをするおそれがあります。)
- ● 電気温水器本体の上部を付属の転倒防止金具で固定する。
  (地震などにより、転倒してけがをするおそれがあります。)
- ● 壁面へのねじ固定は、ねじが壁面のラス網等と電気的に絶縁した状態で行う。
  電気的に絶縁しないと、発熱して火災の原因になることがあります。
- ● 水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水を使用してください。
  また、塩分、石灰分、その他不純物が使用水に含まれていたり、酸性水質の地域では電気温水器の使用を避けてください。特に、井戸水、地下水、温泉水では機器の故障のおそれがありますので使用できません。
- ● 以下の場所には設置しない。
  - 塩害地（海浜地区で潮風が直接あたる場所）
  - 最低気温が－１０℃以下となる場所

1. 据付および付帯工事をされる方へ

- 製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。
  工事の前に「安全上のご注意」を必ずお読みになり、本書の記載事項を守って工事を行ってください。
- 据付工事および付帯工事は必ず専門の工事業者により行ってください。
- 据付後は、本書を保証書・取扱説明書と共にお客さまにお渡しし、保管していただくよう依頼してください。
  また、最寄りの電力会社の営業所に【電気温水器の据付完了】の連絡をしてください。
- 工事説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、指定の純正別売部品を使用せず工事された場合の事故や故障については責任を負いかねます。
- この製品はリモコン（同梱品）を接続しないと動作しません。必ずリモコンを接続して使用してください。
- 浴室では、やけど防止のため、サーモスタット付き湯水混合栓を必ず使用してください。
- 給湯栓には必ず逆止弁付き湯水混合栓(現地準備品)を使用してください。
- 適用最大浴槽サイズは５４０Ｌです。また、ふろ接続は一ヶ所のみです。二ヶ所以上の接続はできません。
- ガス機器から電気給湯機へ変更する際は、事前にガス業者への連絡が必要になります。
  ガス業者への連絡をせずに無断撤去することは、法令により規制されておりますのでご注意ください。

【お願い】
- 製品本体は吊りあげないでください。
- 製品の上面には上がらないでください。変形することがあります。
- メンテナンスのための十分なスペースを確保してください。

2. 関連部品

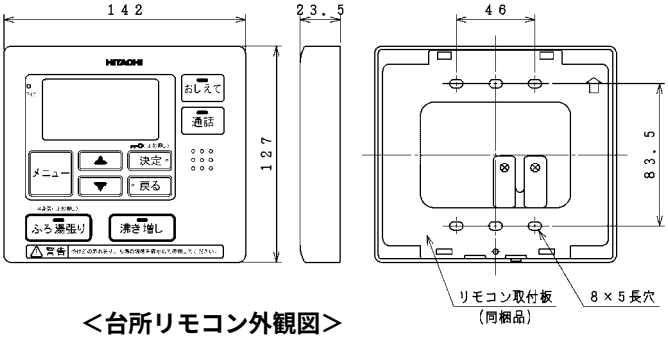
部　　品　　名	必　　要　　数	形式
リモコンコード２芯１０m	台所リモコン、ふろリモコン それぞれにいずれかを各１	BERC-10M2
リモコンコード２芯１５m		BERC-15M2
ふろ接続アダプター（Ｌ曲がり）	いずれか　１	BEAD-L(高温水遮断装置付)
		BSAD-L
ふろ接続アダプター（ストレート）		BEAD-S(高温水遮断装置付)
		BSAD-S
アース棒	１※	BEA-1
脚部後方差込金具	必要に応じ１	BEM-3S

※アース棒は取付けをおすすめする部品です。

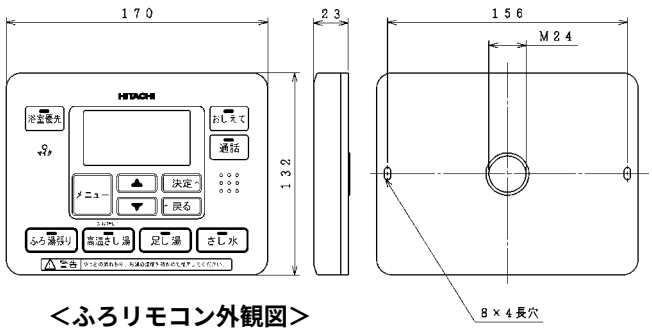
3. 同梱付属品

本体には、下記の部品・付属品が同梱されていますのでご確認ください。
- ●保証書
- ●取扱説明書
- ●工事説明書（本書）
- ●アンカーボルト施工用型紙
- ●台所リモコン、ふろリモコン　各１
- ●小型ボイラー設置報告書
- ●小型ボイラー明細書

4. 製品外観図

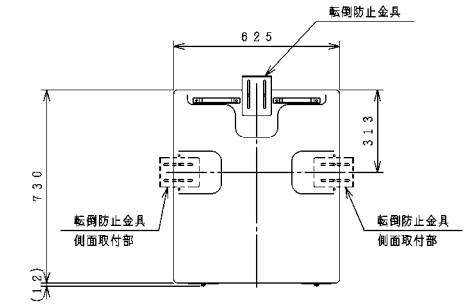


＜台所リモコン外観図＞

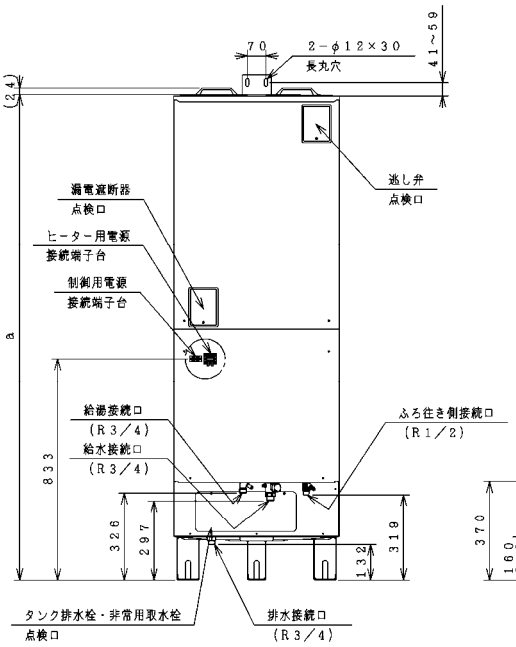


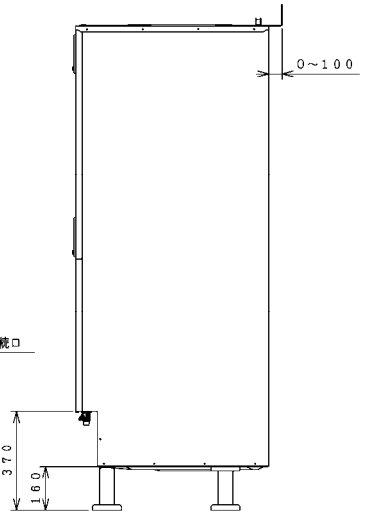
＜ふろリモコン外観図＞

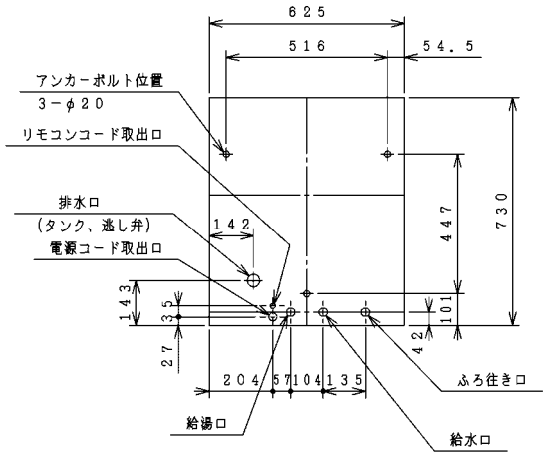
＜BE-A37EWU,BE-A46EWU 外観図＞



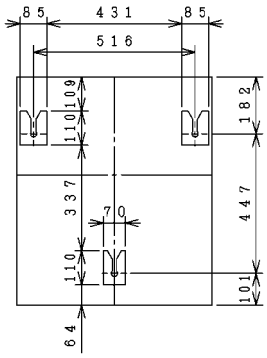
型式	a
BE-A37EWU	1835
BE-A46EWU	2165





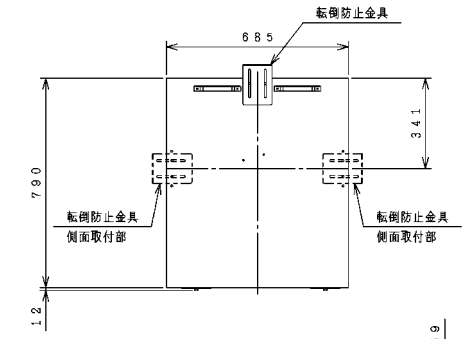


配管取出し位置図

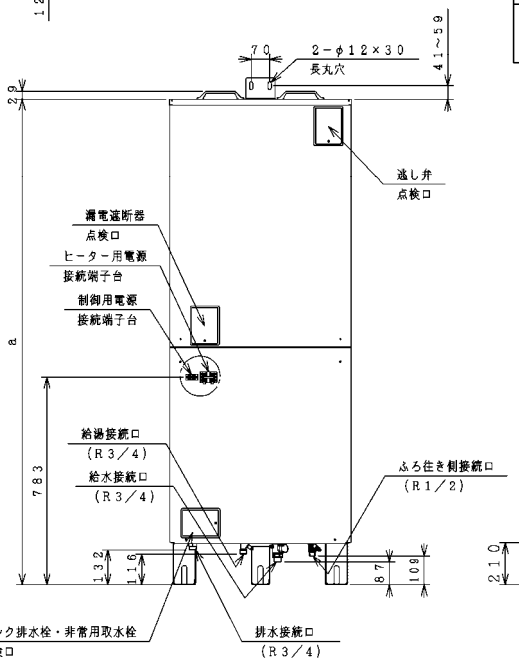


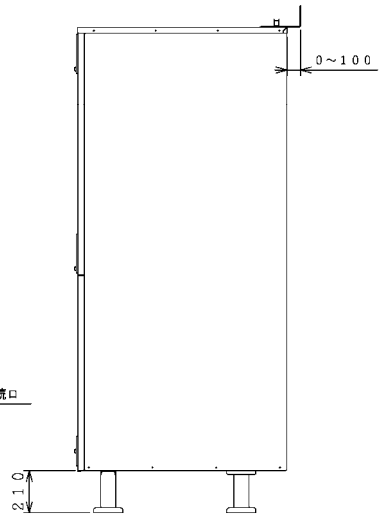
電気温水器本体脚部寸法

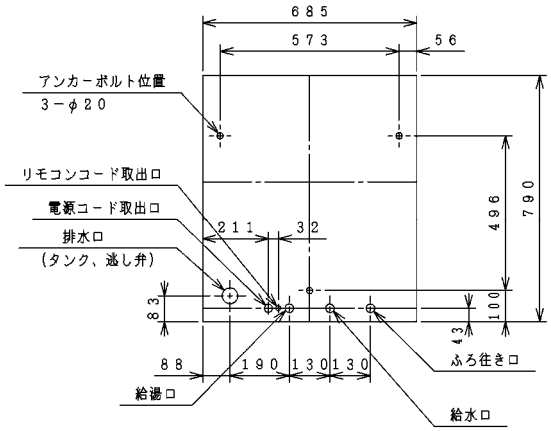
＜BE-A56EWU 外観図＞



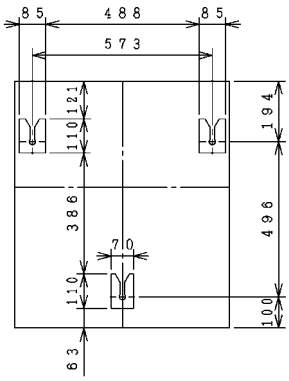
型式	a
BE-A56EWU	2182







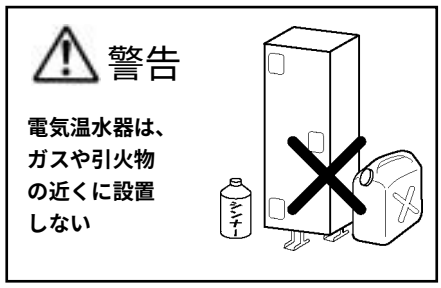
配管取出し位置図



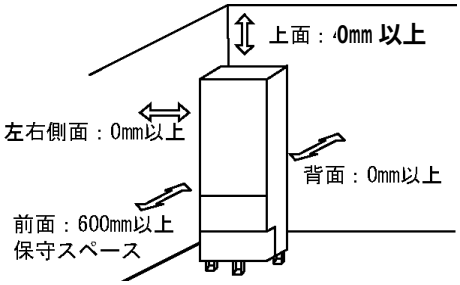
電気温水器本体脚部寸法

5．据付工事

5－1　据付場所の選定

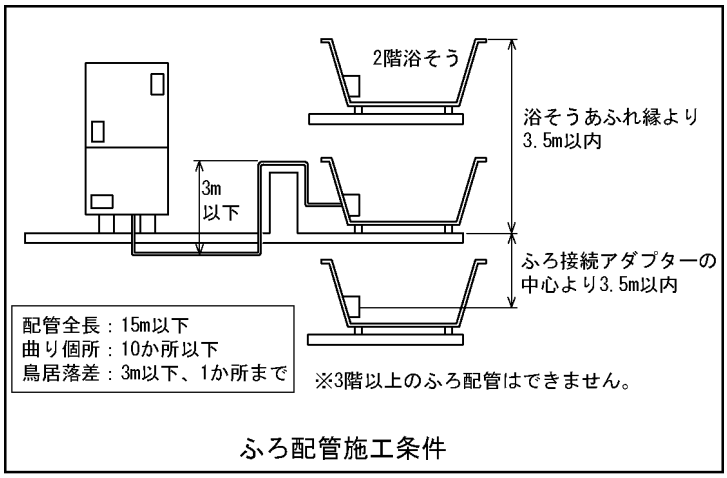


●電気温水器本体と建物のすきま寸法は、各都市の火災予防条例に従って設置してください。
●保守、点検に必要なスペースを確保してください。また、本体が故障したときや交換時の搬入、搬出ができるように側面のスペースも考慮してください。
●本体の設置場所は、配管材料を少なくし放熱ロスを少なくするため、使用頻度の多い台所の近くをお選びください。
●排水設備のある場所に設置してください。
●電気温水器は高温水を貯湯していますので放熱があります。室内（機械室）に据え付ける場合は、密閉室にならないよう通気口（換気口）を設け、熱がこもらないようにしてください。また、電気温水器の幅および高さ以上の出入り口を設けて搬出入が容易にできるような構造としてください。



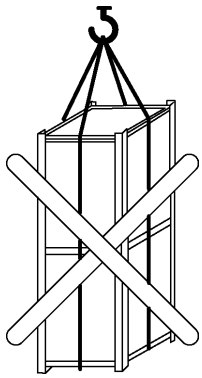
●浴室など湿気の多いところには設置しないでください。
●周囲温度が－10℃以下となる場所に設置しないでください。
●塩害を受けやすい地区では、電気温水器周辺の雨覆い、風覆いを行ってください。
●屋外・屋内兼用型は雨水が集中して落下する場所、積雪で埋もれるような場所には設置しないでください。
●屋外・屋内兼用型は集合住宅等への設置はできません。
●階下給湯は、電気温水器設置面より下方 3.5mまでとしてください。
●電気温水器は、水平な設置面に垂直に立てて据え付けて下さい。（傾斜許容限界 2/100）
●この電気温水器は、消防庁告示第一号(対象火気設備等及び火気器具類等の離隔距離に関する基準)に適合しています。建築物の可燃物等からの離隔距離は周囲 0㎝ 以上です。ただし、保守点検に必要なスペースは必ず確保してください。本体前方の保守スペースは 600㎜ 以上必要です。

消防法基準適合組込形			
可燃物からの離隔距離(㎝)			
上方	側方	前方	後方
0	0	0	0



ふろ配管施工条件

5－2　搬入

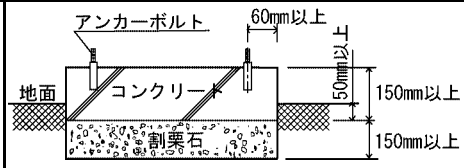
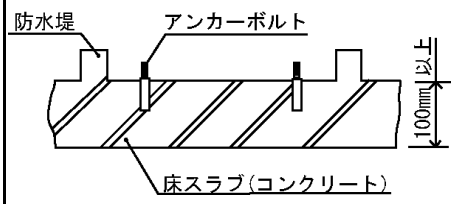


●電気温水器は、吊り上げないでください。2 階以上へ運搬する場合は、エレベータやロングリフト等に乗せて、転倒しないように実施してください。
●本体を横にしたままで地面や物の上に置かないでください。
●開梱は設置場所近くで行ってください。
●運搬は 2 人以上で行い、開梱後の運搬には本体上面に設けてある取手と本体の下部の脚を使用してください。
●開梱後、仮置きする場合、強風などにより転倒しないよう充分注意してください。
●本体の取手を使用し運搬する場合は、製品質量が重いので製品の落下、転倒などによりけがをしないように十分注意してください。

5－3　基礎工事

●電気温水器の満水時の質量に耐える場所の選定および基礎工事をしてください。

●電気温水器を屋内またはベランダに据付ける場合は、必ず完全な防水、排水工事を行ってください。

建物の固定部の材質	図　　解	注　意　事　項
コンクリート基礎 屋　外		・コンクリートの圧縮強度は 18.0MPa 以上
コンクリートスラブ コンクリート壁など 屋　内		・コンクリートの圧縮強度は 18.0MPa 以上 ・防水堤工事を行う 防水堤は、アンカーボルトの固定、取り外しの際および配管引き回しの障害にならないよう電気温水器との隙間を充分設けてください。 ・防水処理を行う

5－4　電気温水器の固定

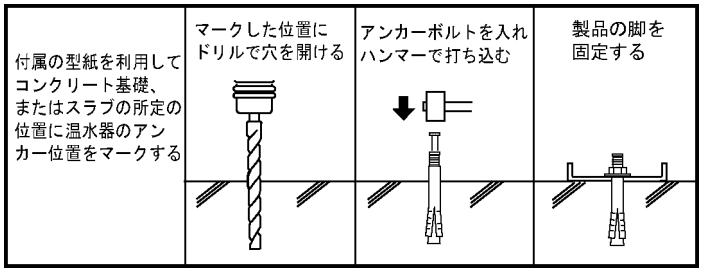
●電気温水器の脚は地震時などの転倒防止のため、脚3か所を必ずアンカーボルトで固定してください。
後方の脚を固定できない場合は、別売品の「脚部後方差込金具」、および次項に示す「転倒防止金具」(付属品)を使用して電気温水器を固定してください。

●電気温水器の本体上部を次項に示す「転倒防止金具」(付属品)を使用して必ず固定してください。

●アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。
（芯棒打ち込み式アンカーボルトの場合）

呼び径	ドリル径（mm）	穴深さ（mm）
M12	12.7	60

●アンカーボルトの施工例は下図を参照してください。



5－5　転倒防止金具の取り付け

●電気温水器を２階以上に据付ける場合や、脚部後方差込金具で固定した場合などは、必ず転倒防止金具を取り付けてください。

●転倒防止金具は、電気温水器上部の背面、左右のいずれかに取り付けます。

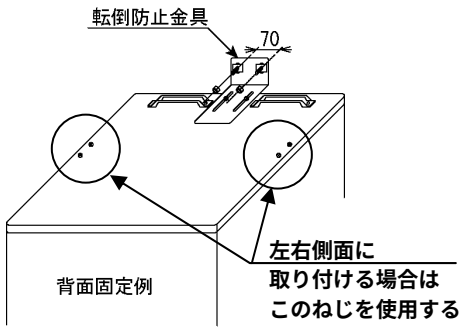
①電気温水器上面に取り付けてある転倒防止金具を外して上向きにして取り付けます。

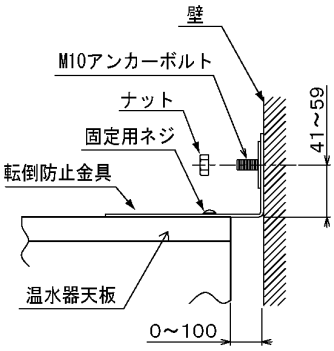
②左右に取り付ける場合は、転倒金具を固定していたねじを元通りに取り付け、該当場所の固定ねじを外して転倒防止金具を取り付けます。

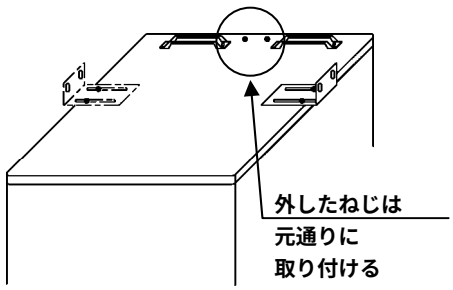
③市販のアンカーボルトを使用して、転倒防止金具を壁に固定します。

●引張荷重 5900N 以上に耐える壁に固定してください。

●アンカーボルトは引き抜き力が 2950N 以上になる施工をしてください。







左右に取り付ける場合

6．配管工事

6－1　配管工事注意事項

●水は、必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
●塩分・石灰分・イオウ分、その他の不純物を多く含有する水や、純水、イオン交換水、井戸水は給水しないでください。
●配管を施工する前に配管内のごみは、きれいに清掃し電気温水器内にごみが入らないようにしてください。
●給排水配管、給湯配管、ふろ配管、タンク排水管の配管接続作業は、必ずパイプレンチ２本を使用し製品に無理な力がかからないよう十分注意してください。
●凍結防止のため配管の保温を必ず確実にしてください。
●配管工事用部品はシステムに適合した指定の別売品を使用してください。
●シャワー給湯栓は必ずサーモスタット式の逆止弁付き湯水混合栓を、その他の混合栓も必ず逆止弁付き湯水混合栓を取り付けてください。なお、シャワー給湯栓は構造により出湯量が極端に少ない場合がありますので、最低必要圧力、シャワーヘッドの仕様を確認して選定してください。
●全自動洗濯機に直接給湯配管することはできません。
●太陽熱温水器のお湯を給水管に接続しないでください。
●ふろ接続は一ヶ所のみです。二ヶ所以上の接続はできません。
●２階等に設置して階下に給湯する場合は、「7-5 特殊配管工事」の注意事項にしたがってください。
●タンク排水管の下には必ず排水ホッパーを設けてください。必ずタンク排水管とホッパーとの間に 50mm 以上の空間を設け、排水管の排水が凍結した場合でも、タンク排水管を閉塞しないようにしてください。
（タンク排水（膨張水の排水）管が閉塞すると、逃し弁が動作してもタンクが破損することがあります。）
●排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと下水ガス等が逆流して電気温水器が腐食します。
●試運転終了後、給水接続口のストレーナを掃除してください。
●配管用シール剤によっては揮発性ガスによりゴムなどを傷めることがあります。特に引火性のものは使用しないでください。

ふろ接続アダプターは必ず
日立純正品をご使用ください。
純正品以外を使用されますと、湯はりが正常に行われません。また、事故や故障の原因になります。

6－2　使用部材

●ふろ接続アダプター等は､必ず日立純正部品を使用してください。
●給水配管、給湯配管、ふろ配管、タンク排水管は、耐食性、耐久性、耐熱性の優れた材料を使用してください。
（当該水道局で材質が指定される場合は、これに従ってください。）
●一般的には銅管を使用します。配管継手は銅または、銅合金継手を使用してください。
●機外の給水、給湯配管は耐震性を考慮して、建物の固定配管（給水・給湯管）との接続部にフレキシブル配管を使用することをおすすめします。

場所	使用配管材	配管ｻｲｽﾞ	施工上の注意
給水配管	耐食性を有するもの（銅管・水道用ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管・水道用硬質塩ビ管）	20A (3/4B)	●点検などで排水するときに必要な電気温水器専用止水栓を取り付けてください。 ●太陽熱温水器のお湯は接続しないでください。
給湯配管	90℃以上の耐熱･耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管）	20A (3/4B)	●階下への給湯は本体設置面より下方 3.5m 以内です。 ●３階への給湯は手洗い程度になります。
ふろ配管	90℃以上の耐熱･耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管）	15A (1/2B)	●配管長さは下記の通りです。 ・15A の場合、15m10 曲がり以内 ・13A 架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管の場合、15m10 曲がり以内 ・φ12.7 銅管の場合、6m5 曲がり以内 ●階下設置の場合、電気温水器設置面からふろ接続アダプターまで、下方 3.5m 以内にしてください。 ●階上設置の場合、電気温水器設置面から浴そうあふれ縁まで、上方 3.5m 以下にしてください。 ●鳥居配管は最大高低差 3m 以内で 1 か所としてください。 ●ふろ接続アダプターは必ず指定のものを使用してください。 ●フレキ管を使用される場合は、片側 0.5m 以内としてください。
タンク排水管	90℃以上の耐熱･耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管）	20A 以上	●沸き上げ中にタンク排水管より少量のお湯（逃し弁からの膨張水）がでますので、必ず排水工事を行ってください。 ●口径φ80 以上の排水ホッパーや排水トラップを設けてください。 ●1/200 以上の先下り勾配としてください。配管サイズは必ず 20A 以上とし、バルブは取り付けないでください。 ●フレキ管は使用しないでください。流れが悪くなり、排水バルブの給気口より水があふれる場合があります。

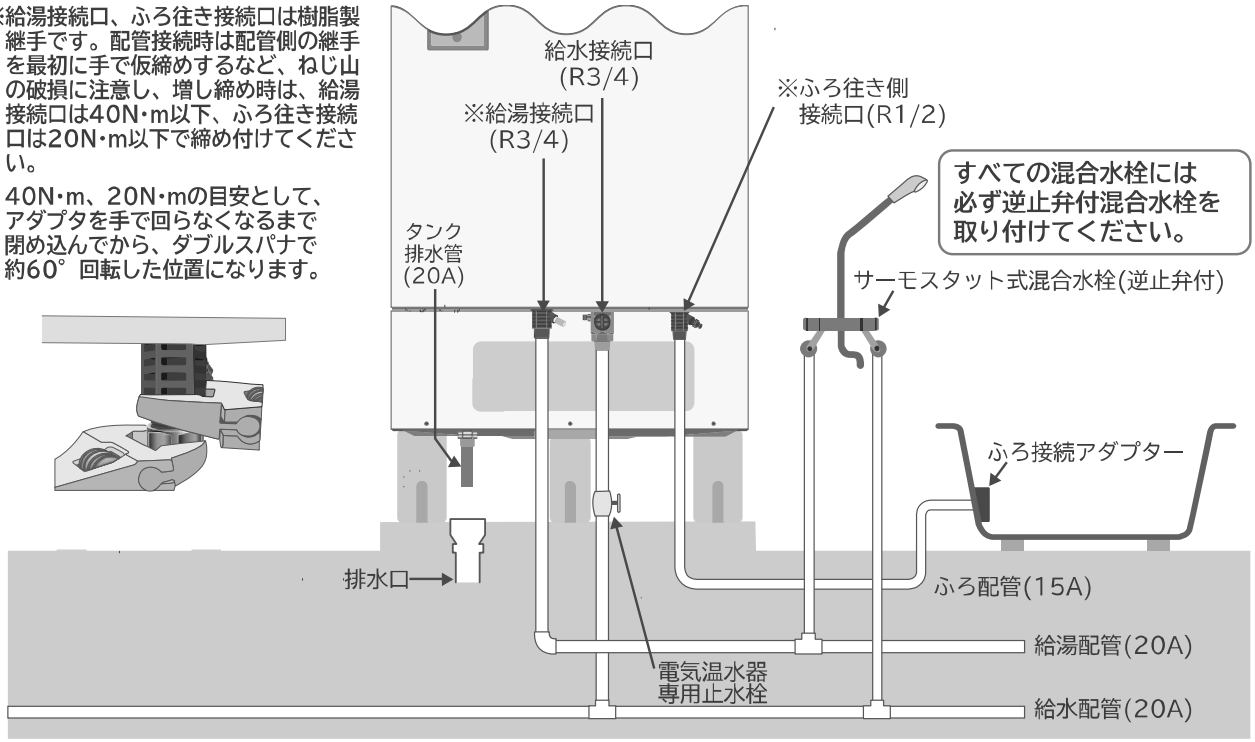
6－3　ふろ･給湯配管工事

標準配管例

●電気温水器には 0.2MPa 以上の給水圧が必要です。
●電気温水器専用止水栓(現地準備品)は、下図の位置（ストレーナ付の給水接続口のすぐ下側）に取り付けるようにしてください。この位置に取り付けが難しい場合は、適宜取り付け可能な位置に取り付けてください。また、お客様に電気温水器専用止水栓の位置を必ず連絡してください。
●沸き上げ時、逃し弁からの膨張水は排水ホースを通ってタンク排水管から排水されます。タンク排水管にはバルブを付けないでください。

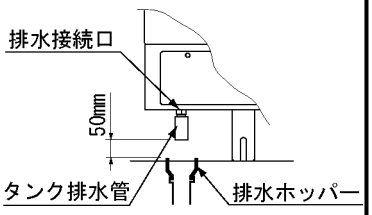
※給湯接続口、ふろ往き接続口は樹脂製継手です。配管接続時は配管側の継手を最初に手で仮締めするなど、ねじ山の破損に注意し、増し締め時は、給湯接続口は40N･m以下、ふろ往き接続口は20N･m以下で締め付けてください。

40N･m、20N･mの目安として、アダプタを手で回らなくなるまで閉め込んでから、ダブルスパナで約60°回転した位置になります。



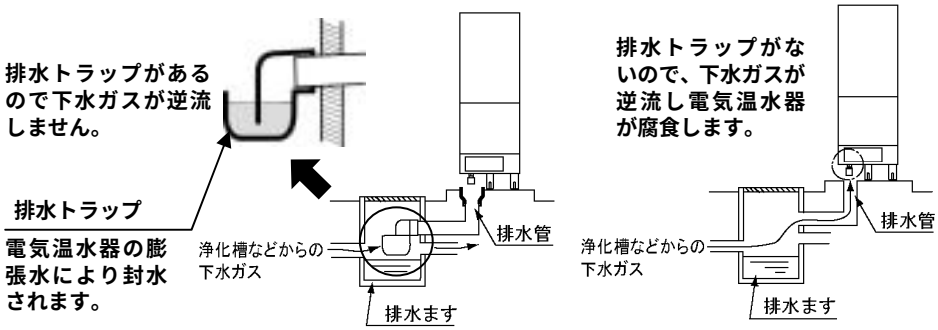
排水口付近詳細

・タンク排水管の先端は、排水ホッパー部が凍結しても、タンク排水管が凍結しないよう排水口空間を50㎜以上設けてください。
・タンク排水管と排水ホッパーの中心を合わせてください。



●排水配管には必ず排水トラップを設置してください。

排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して、電気温水器が著しく腐食し故障の原因になります。



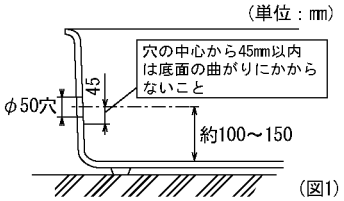
6－4　ふろ接続アダプターの取り付け

●ふろ接続アダプターは必ず日立純正別売品（高温水遮断装置付ふろ接続アダプター）をご使用ください。
●ふろ接続アダプターの取付工事については別売品付属の工事説明書に従い行ってください。

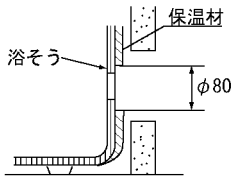
●　浴そうの穴あけ

浴そうの底部から約100～150㎜の位置にφ50㎜の穴を開け、パッキンの当たり面を平滑にしてください。
このとき、穴の中心から45㎜以内は浴そう底面の曲がりにかからない位置にし、平面部を確保してください。
また、バリはきれいにとってください。（図1）

（注）浴そうの外側に保温材があるものは、直径約80㎜の範囲内を丁寧に取り除いてください。（図2）
保温材が残っていますとシール性が悪くなり水漏れのおそれがあります。



（図1）



（図2）

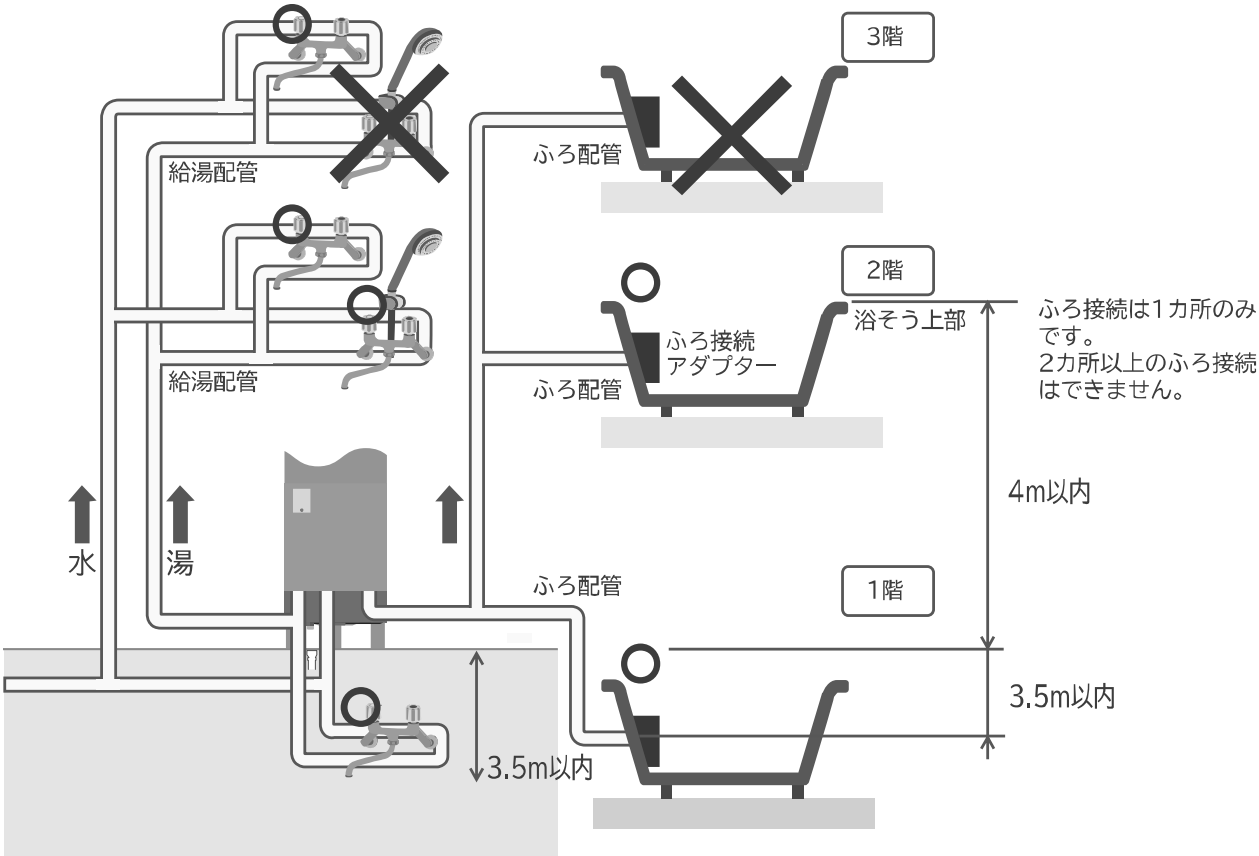
6－5　特殊配管工事

（1）階上給湯の場合

●給水圧は 0.2MPa 以上必要です。
●電気温水器設置面より、浴そうあふれ縁までの高さは上方 4m までとしてください。
●３階への給湯は手洗い程度です。

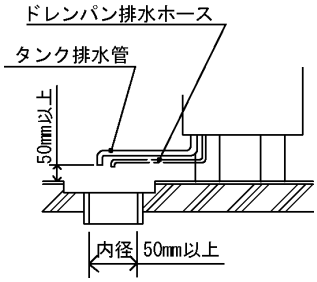
（2）階下給湯の場合

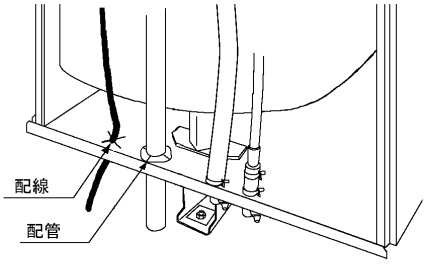
●電気温水器設置面より、ふろ接続アダプターまでの高さは下方 3.5m までとしてください。
●給湯配管は電気温水器設置面より下方 3.5m までとしてください。



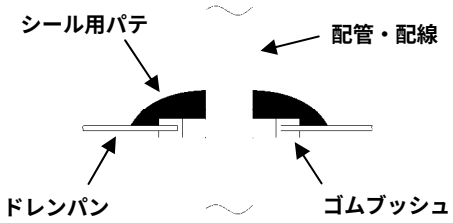
集合住宅に設置する場合

●万一、タンクなどから水漏れしたとき、大きな被害につながるおそれがあります。集合住宅に設置する場合は、ドレンパン付仕様(受注生産品)を据え付けてください。
●ドレンパンに付属の排水ホースを排水管または排水溝に必ず配管してください。また、排水ホースの先端は、凍結しないように排水口空間を 50㎜ 以上設けてください。
●配管接続部から水漏れがないことを確認してください。また、ドレンパンの配管・配線の貫通部をシール用パテで塞いでください。(BE-A56EWUB の場合)





貫通部詳細



6－6 凍結防止工事

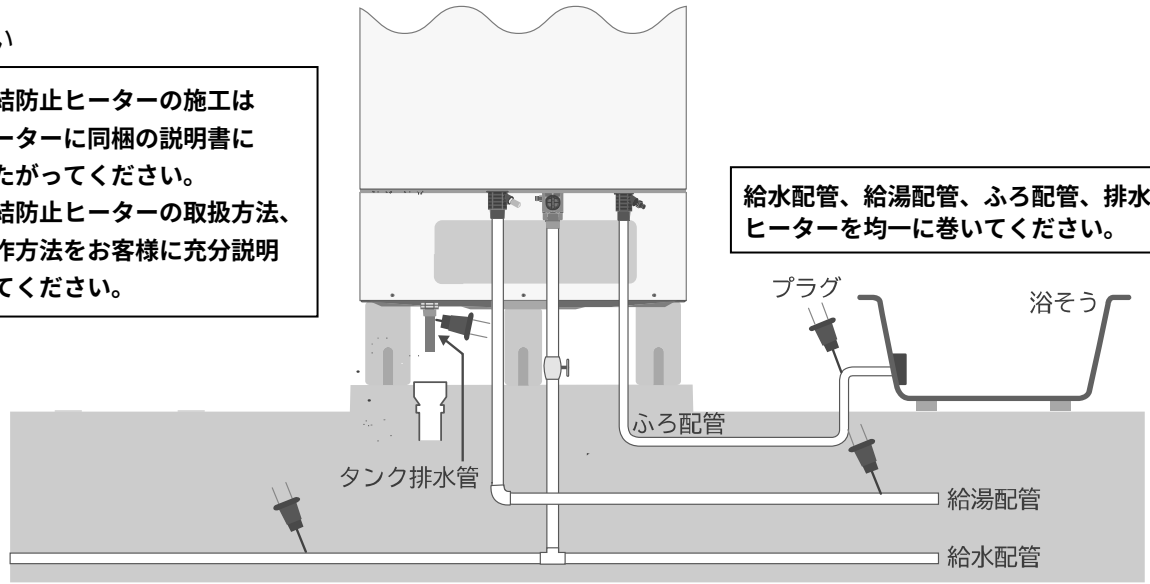
保温工事を行っても周囲温度が0℃以下になると配管は凍結します。
機器や配管が破裂する場合がありますので適切な凍結防止対策をしてください。

凍結防止ヒーター施工例

●9.項「試運転」終了後、配管の水漏れがないか確認して、凍結防止工事を行ってください。
●凍結のおそれのある配管部分(給水配管、給湯配管、ふろ配管、タンク排水配管、電気温水器専用止水栓、水抜き栓)すべてに凍結防止ヒーターを均一に巻いてください。
●凍結防止ヒーターは配管に直接取り付け、その上に保温材を巻いてください。
●給水配管、給湯配管は本体内部の各接続口まで巻いてください。
●凍結防止ヒーターは何本も使用します。使用数に応じて適当な位置にコンセントを設けてください。
●コンセントはヒーターコードの出口より高い位置に取り付けてください。低いと雨や水がコードをつたわりコンセントにかかるおそれがあります。

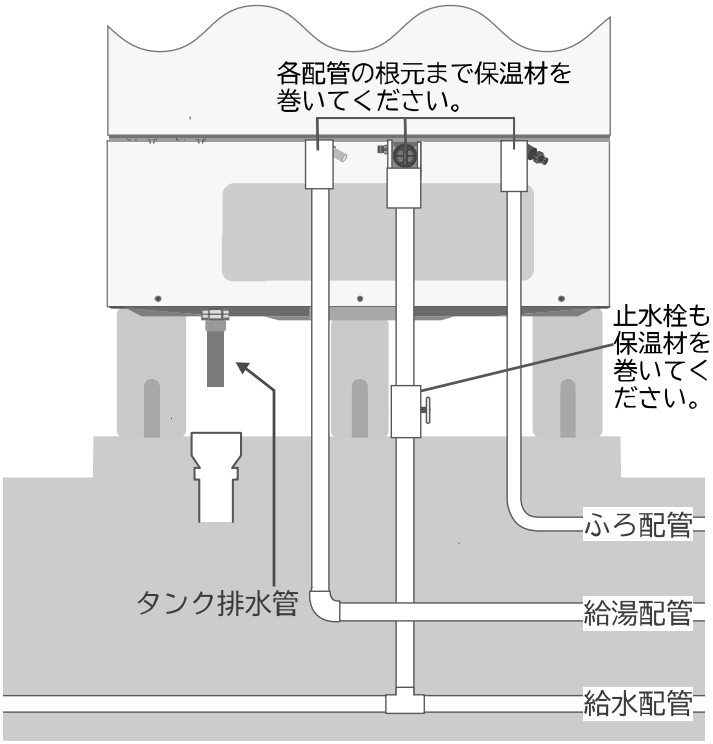
お願い

●凍結防止ヒーターの施工はヒーターに同梱の説明書にしたがってください。
●凍結防止ヒーターの取扱方法、操作方法をお客様に充分説明してください。



6－7　配管保温工事

●9.項「試運転」終了後、配管の水漏れがないか確認して保温工事をしてください。
保温材の厚みは一般地 10㎜ 以上、寒冷地 20㎜ 以上とし、各水道事業者指定の厚みに従ってください。
●給水・給湯・ふろ配管の接続継手部、タンク排水管にも必ず保温材を巻いてください。
●保温工事をした部分は、保温材がぬれないようにカバーで囲うなど適切な防水処理を行ってください。



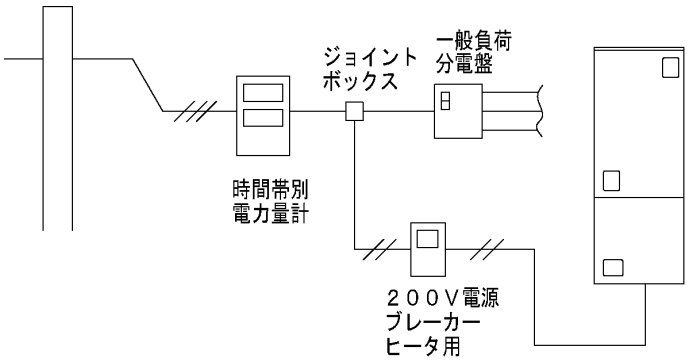
7．電気配線工事

●電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。
●ブレーカーの定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。
●電力契約は必ず「時間帯別電灯契約」または「深夜電力契約」としてください。各契約の詳細については所轄の電力会社にお問合せください。
●タンクを満水にしたこと、各止水栓が開いていることを確認後、9.項「試運転」に従って電源を入れてください。
●保護アース(接地)工事は万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士によるＤ種接地工事を行ってください。

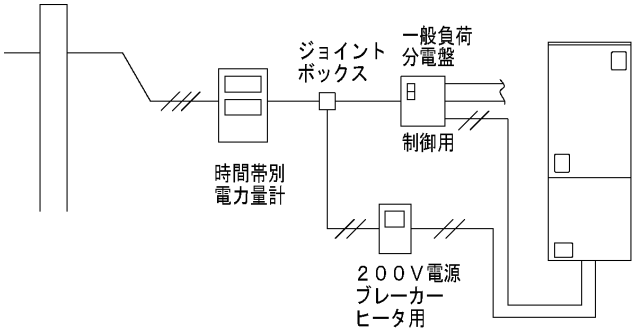
7－1　引込配線工事

■引き込み口から電気温水器までの回路は以下です。

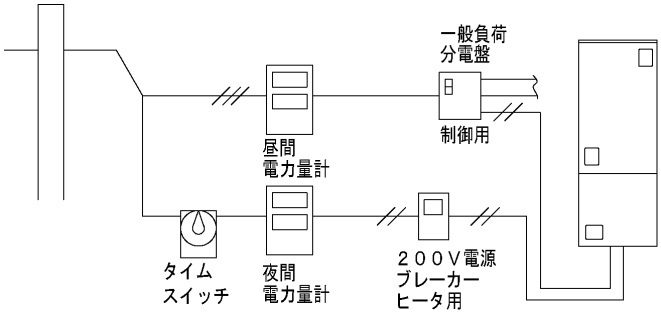
時間帯別電灯で使用する場合【Ⅰ】



時間帯別電灯で使用する場合【Ⅱ】



深夜電力で使用する場合



：単相３線　　：単相２線

■時間帯別電灯で使用する場合のお願い
●【Ⅰ】、【Ⅱ】どちらの方法で施工するかは、所轄の電力会社の指導にしたがってください。
●引込線取付点とジョイントボックス間のケーブルの太さは、一般負荷と電気温水器を見込んだサイズにしてください。
●電気温水器用電源ブレーカー組込みの分電盤の場合は、分電盤より直接配線してください。

■ブレーカーの定格とケーブルの太さ(時間帯別電灯で使用する場合【Ⅰ】)

形式	定格電圧	ブレーカー定格	ケーブルの太さ
BE-A37EWU	単相 200V	30A	5.5㎟(φ2.6)
BE-A46EWU	単相 200V	40A	8.0㎟(φ3.2)
BE-A56EWU	単相 200V	50A	14.0㎟(φ4.2)

■ブレーカーの定格とケーブルの太さ(時間帯別電灯で使用する場合【Ⅱ】または深夜電力で使用する場合)

形式	定格電圧		ブレーカー定格	ケーブルの太さ
BE-A37EWU	深夜電力	単相 200V	30A	5.5㎟(φ2.6)
	昼間電力	単相 200V	15A	φ1.6
BE-A46EWU	深夜電力	単相 200V	40A	8.0㎟(φ3.2)
	昼間電力	単相 200V	15A	φ1.6
BE-A56EWU	深夜電力	単相 200V	50A	14.0㎟(φ4.2)
	昼間電力	単相 200V	15A	φ1.6

※「時間帯別電灯で使用する場合【Ⅱ】」および「深夜電力の場合」は、制御用電源として昼間電力 200V の配線をしてください。

7－2　電気温水器内部配線工事

電力の契約内容(深夜電力、時間帯別電灯)により内部配線は異なります。
電気温水器出荷時は、時間帯別電灯型【Ⅰ】用に内部配線をしています。

●各コードは必要以上にたるませないでください。
特にヒーターやタンクに触れないよう確実に離して固定してください。

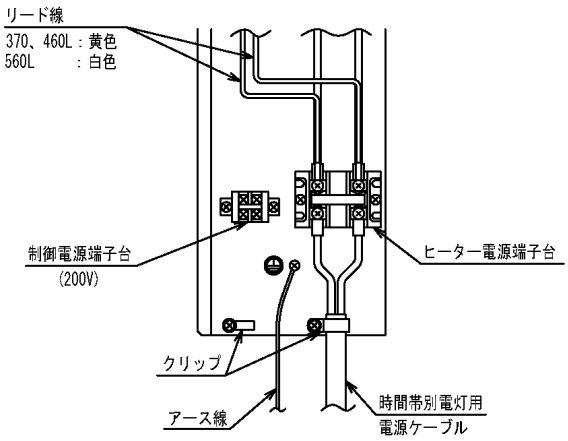
⚠ 注意

電源を入れない

9.項「試運転」の手順に従ってタンクに給水後、電源を入れてください。

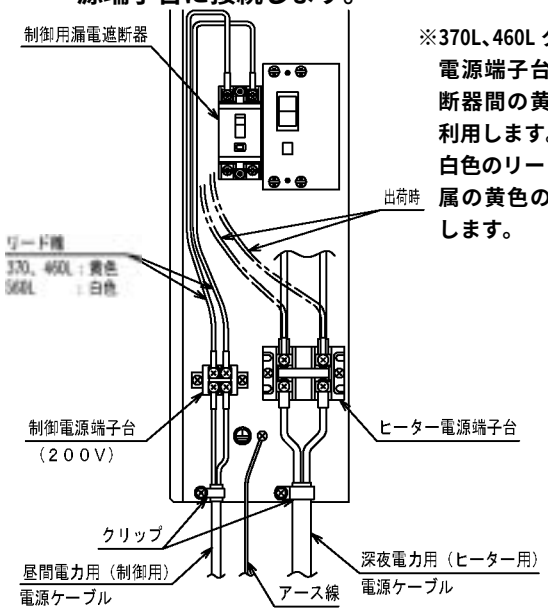
・時間帯別電灯【Ⅰ】で使用する場合

時間帯別電灯用電源ケーブルをヒーター用端子台に接続します。



・時間帯別電灯【Ⅱ】で使用する場合
・深夜電力で使用する場合

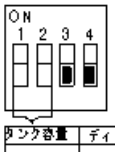
①制御電源端子台～制御用漏電遮断器間を黄色のリード線（２本）で接続します。(※)
②昼間電力用（制御用）電源ケーブルを制御電源端子台に接続します。
③深夜電力用（ヒーター用）電源ケーブルをヒーター電源端子台に接続します。



※370L、460L タイプはヒーター電源端子台～制御用漏電遮断器間の黄色のリード線を利用します。560L タイプは、白色のリード線を除去し、付属の黄色のリード線を使用します。

■　**ディップスイッチ初期値**

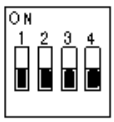
<SW1>



タンク容量	ディップスイッチ
370L	1 ■ 2 ■
460L	1 ■ 2 ■
560L	1 ■ 2 ■

1	ON	タンク容量設定
	OFF	
2	ON	タンク容量設定
	OFF	
3	ON	――
	OFF	通常（出荷時）
4	ON	――
	OFF	通常（出荷時）

<SW2>



1	ON	給湯高温設定　有
	OFF	給湯高温設定　無（出荷時）
2	ON	――
	OFF	通常（出荷時）
3	ON	――
	OFF	通常（出荷時）
4	ON	――
	OFF	通常（出荷時）

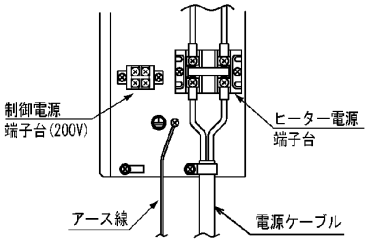
7－3　アース(接地)工事

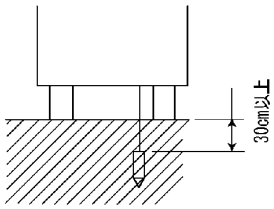
●感電事故防止のため電気設備基準および内線規程に基づきＤ種接地工事を行ってください。
●水道管、ガス管への接地、および他器具類用アースとの共用はしないでください
①アース棒、アース線(緑色)をハンダ付けで確実に接続し、接触抵抗の変化がないように絶縁テープを巻付けます。
②アース線を電源コード取り出し口から本体内に通し保護アースに接続します。
③アース棒を地中深さ 30cm 以上の深さに打ち込みます。

⚠ 警告　**必ずアース工事を行う**

■アース線

ヒーター容量	アース線(緑色)
4.4kW	銅線φ1.6 または 2mm² 以上
5.4kW、6.4kW	銅線φ2.0 または 3.5mm² 以上





8．リモコン工事

■台所リモコン、ふろリモコンの箱には、以下のものが同梱しています。

・木ネジ(φ3.5×25)×2本・・・台所リモコン固定用(コード露出配線時)
・木ネジ(φ3.5×40)×2本・・・ふろリモコン固定用
・木ネジ(φ3.5×32)×2本・・・防水カバー固定用
・ネジ棒大×1ヶ
・ネジ棒小×1ヶ

■リモコンコードは別売りです。下記より選定してください。
・BERC－ 5M2（コード長さ 5m）
・BERC－10M2（コード長さ 10m）
・BERC－15M2（コード長さ 15m）　　（両端に接続用の端子が取り付けられてあります。）

■リモコンコードを現地調達される場合は長岡特殊電線製シールド付２芯ケーブル（MVVS、0.3mm²×２芯、12/0.18mm）と同等品をご使用ください。
他のコードを使用した場合、ノイズによる通信不良が発生する原因になります。

■リモコン取付工事は、専門の技術が必要です。販売店または工事店が行ってください。

■**リモコンコードの接続は、200Ｖ電源通電前に行ってください。**

■電気温水器までの配線長さは 15m 以下としてください。

■リモコンコードは、電源ケーブル、アース線および他機種のリモコンケーブルと離して配線してください。
ノイズによる誤作動およびリモコンのスピーカーからノイズ音が発生する原因になります。

■リモコンは他の電子機器と十分離して設置してください。インターホン使用時に雑音がすることがあります。
特にドアホンには注意してください。

■台所リモコン、ふろリモコンは凹凸のあるところに取付けないでください。

■台所リモコン、ふろリモコンにはインターホン機能があります。シャワーやテレビの近くには取り付けないでください。雑音の大きい場所では通話が途切れる場合があります。

8－1　台所リモコン工事

(1)取り付け場所の選定

●台所リモコンはボタン操作が容易に行え、表示が目の高さよりやや低い位置になるよう取り付けてください。

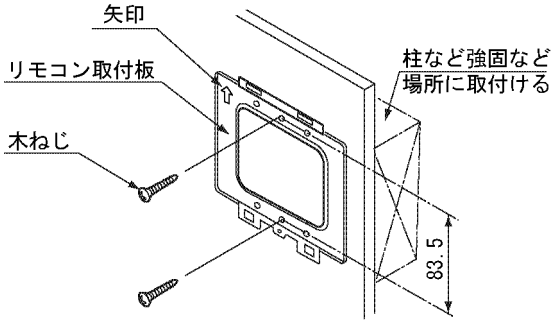
●台所リモコンは防水タイプではありません。湿気の多いところ、蒸気や水しぶきのかかるところは避けてください。また、調理器のそばや直射日光の当るところに取り付けないでください。

●台所リモコンの取付面が金属の場合、リモコンコードのＹ型端子が金属面と接触しないよう注意してください。

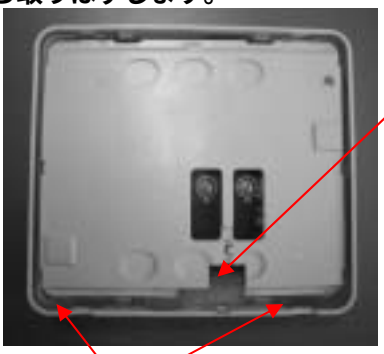
(2)壁面に取り付ける場合（コード露出配線）

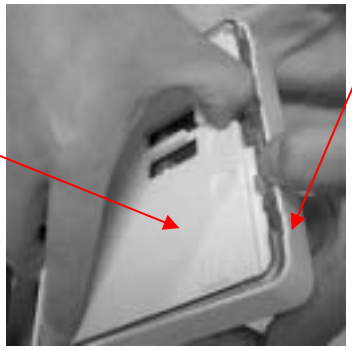
①リモコン取付板を木ねじ(φ3.5×25)2 本で壁に取り付けます。取付板の「矢印」が左側で上向きになるよう取り付けてください。

(注意)リモコン取付板を固定する際は下記に注意してください。
ボタン操作が出来なくなる場合があります。
・リモコン取付板を壁に固定するときは、木ねじの頭が浮かないように、しっかりねじ込んでください。また、凹凸のあるところに取付けないでください。
・クロスなどのやわらかい壁にリモコン取付板を取り付けるとき、リモコン取付板を木ねじで締めすぎないでください。締付けすぎるとリモコン取付板が湾曲する場合があります。

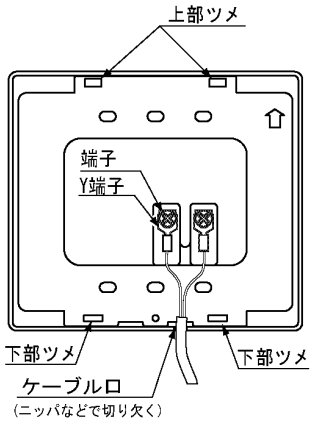


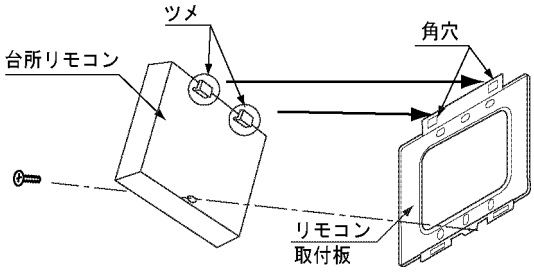
②台所リモコンの裏側のへこみ部に指を入れ、ケースを押えながらツメ部分を外し、リモコンカバーをケースから取りはずします。



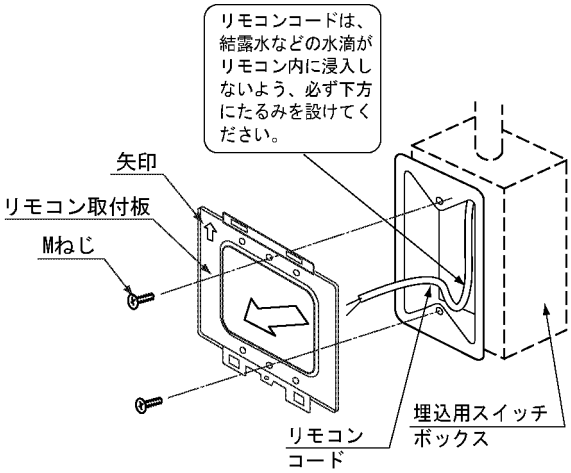


③ケースのケーブル口部をニッパなどで切り欠きます。
④リモコンコードを端子台に接続し、ケーブル口より引き出します。
⑤ケース裏面上部のツメをリモコン取付板上部の角穴に引っ掛け、リモコン下部のツメをリモコン取付板下部の角穴に「カチッ」と音がしてツメがはまるまで押し込みます。
（注意）台所リモコンへの配線がリモコン取付板と台所リモコン本体の間に挟まらないように注意してください。
⑥小ねじ１本で、リモコンを取付板に固定します。
リモコンを壁に確実に固定するため、必ずねじ止めしてください。
⑦リモコンカバーの四隅を両手で「パチン」と音がしてツメがはまるまで押し込みます。
⑧リモコンコードを壁に固定して電気温水器まで配線します。





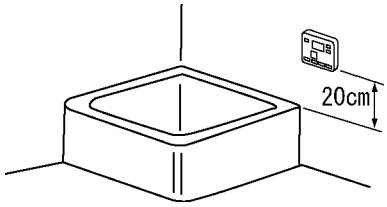
(3)リモコンコードを壁中に通す場合（コード埋込配線）
①リモコン取り付け位置に埋込用スイッチボックス（JIS１個用）を取り付けておきます。
②リモコンコードを電線管に通し、電気温水器まで配線します。
③リモコン取付板をスイッチボックスの取付ねじ穴に合わせ、M ねじ(現地準備品)で固定します。取付板の「矢印」が左側で上向きになるよう取り付けてください。
④台所リモコンの裏側のへこみ部に指を入れ、ケースを押えながらツメ部分を外し、リモコンカバーをケースから取り外します。((2)－②を参照)
⑤リモコンコードをリモコン端子台に接続します。
⑥リモコンをリモコン取付板に取り付け、リモコンカバーをはめてください。((2)－⑤⑥⑦を参照)



8－2　ふろリモコン工事

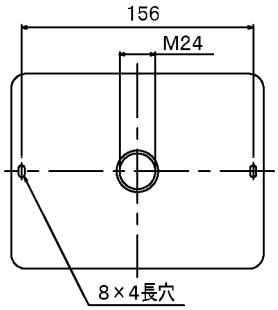
（1）取り付け場所の選定

●入浴する際にお湯がかかったりすることのない位置を選んでください。浴そうから 20cm ぐらい上の位置が適当です。
●浴室外のふろリモコン先端の防水カバー取付け場所は雨水、飛水のかからない乾燥した場所で、機器の排熱を受けない場所を選んでください。

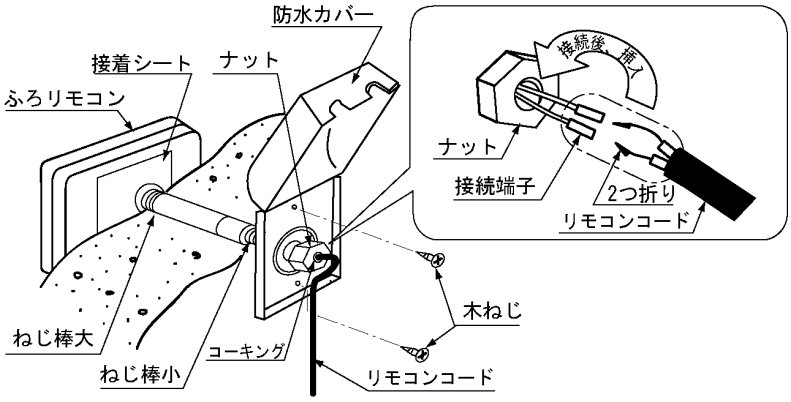


（2）リモコン取付け

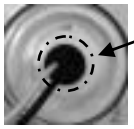
①穴径 28～30㎜ の貫通穴をあけます。
②ふろリモコンから出ているリード線をねじ棒大、ねじ棒小に通します。
③ねじ棒大のねじ込み部にシールテープを巻いて、ふろリモコンねじ穴部にしっかりねじ込み、接着シートのセパレート紙を剥して浴室壁面に接着します。
④ふろリモコンを固定する際は、マイナスドライバーなどで、リモコンカバーをケースから外し①②を行った後、付属の木ねじ（φ3.5×40）2 本を使用し、締め過ぎないよう注意してください。
締め過ぎますとリモコンのボタン操作を受けつけない場合があります。
⑤ねじ棒小にナットを時計方向に回してねじ込み、更にねじ棒小をねじ棒大へねじ込み、防水カバーを浴室外壁面に押え付け、付属の木ねじ(φ3.5×32)2 本で固定してください。
(注)締め付け過ぎますと、ねじ棒小が破損することがあります。
⑥リモコンコードの端子部分を切断し、コードの被覆を先端約 7㎜ むいて、ふろリモコンから出ているリード線と接続してください。
⑦接続端子およびリモコンコードをねじ棒の中に入れコーキングやパテで隙間を塞いでください。
⑧防水カバーのふたをしてください。
⑨壁貫通穴の隙間は、パテ等で塞いでください。



取付寸法図

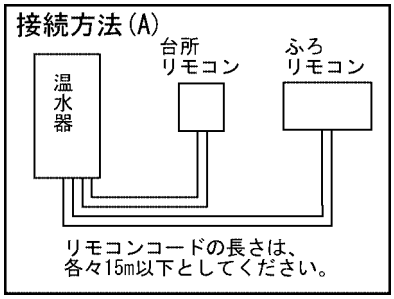


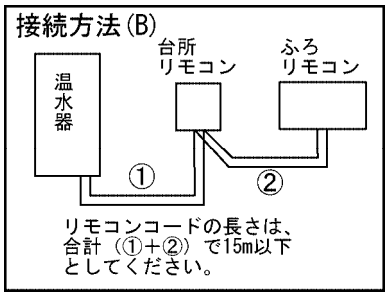
(注)ねじ棒を使用しないで、ふろリモコンを取り付ける場合は、ふろリモコンと浴室壁面の隙間を全周シリコンシール剤でコーキングしてください。または、ふろリモコン裏側のリモコンコード取出部をコーキングしてください。

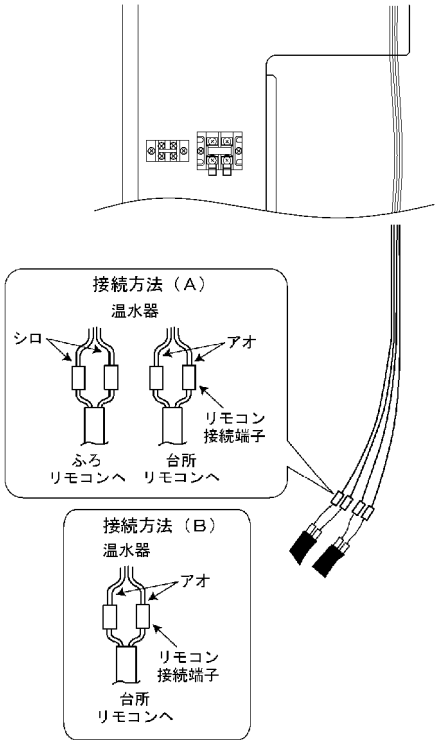

リモコンコード取出部をコーキング

8－3　電気温水器との接続

台所リモコン、ふろリモコンはどちらも無極性です。
電気温水器との接続は下図(A)または (B) としてください。
①リモコンコード取出口のゴムブッシュをカッターなどで切り込みを入れます。
②リモコンコード取出口からリモコンコードを通し、リード線の先端約 7㎜ を皮ムキしてください。
③リモコン側リード線とカシメ作業を行ってください。







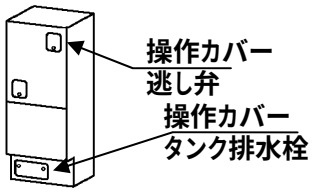
9．試運転

据付工事および附帯工事が完了しましたら、お客様にも立会っていただき試運転を行ってください。
運転操作はもとより誤操作の注意などよく説明し、理解を深めていただくようにしてください。
●深夜電力契約の場合は、電力会社の了解を得てタイムスイッチを通電状態にしてください。
●台所リモコン、ふろリモコンの操作は取扱説明書を参照してください。

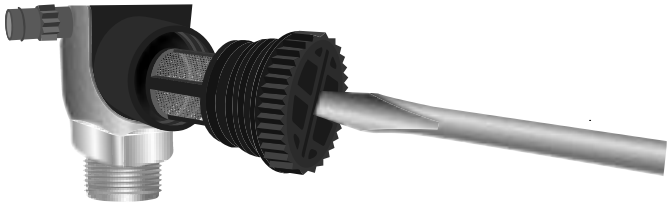
9－1　タンクを満水にする

●タンクを満水にするには 30～50 分かかります。以下の手順で給水してください。

①すべての湯水混合栓が閉じていることを確認してください。
②逃し弁のレバーを開けます。
③タンク排水栓及び全ての水抜き栓が閉まっているのを確認したら、現地施工のタンク専用止水栓を開きます。



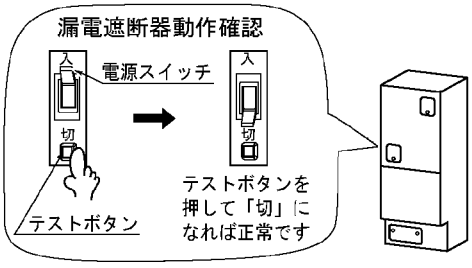
④５分間給水した後、現地施工のタンク専用止水栓を閉じてストレーナの掃除**をします。**

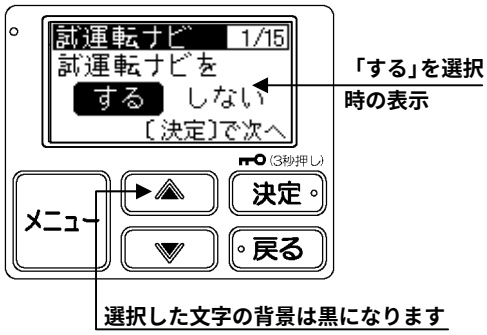


⑤再度、現地施工のタンク専用止水栓を開き、タンクへ給水します。タンク排水管から水が出てきたら満水です。
⑥満水になったら、逃し弁のレバーを閉じます。タンク排水管から水が出るのが止まります。(タンク専用止水栓は開いたままにしてください)
⑦湯水混合栓をお湯側にして開きます。配管のエアを抜きます。水が出ない、出が悪い場合はストレーナの掃除をしてください。
⑧配管接続部及び逃し弁、減圧弁、ふろ接続アダプターから水漏れがないことを確認してください。

9－2　電源投入

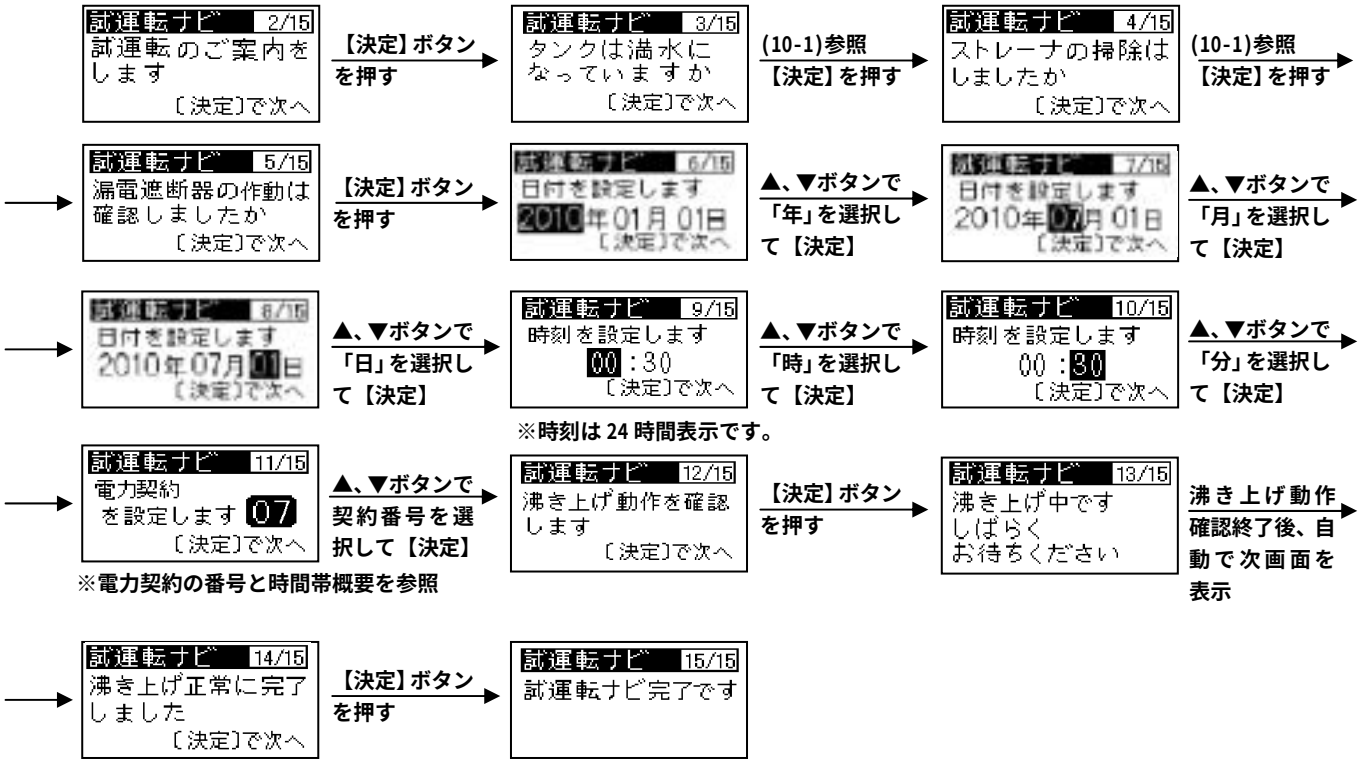
①200V の元電源ブレーカーを「入」にします。
②電気温水器の電源スイッチ 2 ヶ所を「入」にし、テストボタンを押して動作確認をします。
「入」になっていた電源スイッチが「切」になれば正常です。
確認が終ったら電源スイッチを「入」に戻してください。
③電源スイッチ 2 ヶ所を「入」にすると、台所リモコンに「試運転ナビ起動中です　お待ちください」を表示します。
④台所リモコンに「試運転ナビ　する　しない」を表示します。
試運転ナビを使用して試運転を行う場合は「する」を、手動で試運転を行う場合は「しない」を選択してください。
「する」「しない」は「▲」「▼」ボタンで選択し、【決定】ボタンを押してください。
⑤試運転ナビを使用する場合は 9-3 項へ、使用しない場合は 9-4 項へ進んでください。





9－3　試運転ナビによる試運転手順

試運転ナビ(ナビゲーション)は、以下の順番で進んでいきます。
台所リモコンに表示する確認事項と試運転を行ってください。(所要時間 50～60 分)
・試運転ナビの前に 9-1 項、9-2 項を必ず行ってください。
・試運転ナビは台所リモコンのみで行います。
・試運転を完了していない場合、試運転ナビの途中で電源スイッチを「切」にすると、再度「入」にした場合、試運転ナビの最初に戻ります。(漏電遮断器の作動確認をするため、テストボタンを押し「切」にした場合も、再度「入」にした際に試運転ナビの最初の画面に戻ります。)
・試運転ナビ中は給湯、ふろ湯はりは使用しないでください。



注意）試運転ナビ終了後は、継続して沸き上げ運転を行います。リモコン画面は「沸上げ」「少」と表示しますが、据付直後は契約電力が「時間帯別電灯契約」か「深夜電力契約」のどちらであるか自動判断するために「沸上げ」「少」の表示でもタンク全量を沸き上げます(タンク休止を設定してもタンク全量を沸き上げます)。また、時間帯別電灯契約でも電源を入れてから10時間は、「沸き増し」「全量」は設定できません。

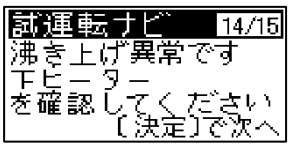
■ 電力契約モード番号と時間帯概要(2012 年 8 月現在)

- **契約している電力制度の内容は、各電力会社にお問合せください。**
- **契約している電力制度が「深夜電力契約」の場合、電力契約モードは出荷時設定から変更する必要はありません。**
- **A ゾーン、B ゾーン、C ゾーンの用語は説明のために付加したもので、各電力会社の定める用語ではありません。**

電力会社	契約名称	契約番号
北海道電力	ドリーム８、ドリーム８エコ(深夜時間帯22時～6時)	０７
	ドリーム８、ドリーム８エコ(深夜時間帯23時～7時)	０８
	ドリーム８、ドリーム８エコ(深夜時間帯24時～8時)	０９
	eタイム３	０６
東北電力	やりくりナイト８	００
	やりくりナイト10、やりくりナイトＳ	０６
東京電力	おトクなナイト８	００
	電化上手	０２
	おトクなナイト10	０６
中部電力	タイムプラン	００
	Ｅライフプラン	０４
北陸電力	エルフナイト８	００
	エルフナイト10プラス	０５
	エルフナイト10	０６
関西電力	時間帯別電灯	００
	はぴeタイム、はぴeプラン	０２
中国電力	エコノミーナイト	０１
	ファミリータイム	０３
四国電力	電化Deナイト、得トクナイト	００
九州電力	時間帯別電灯	００
	電化deナイト	０５
	よかナイト10	０６
沖縄電力	時間帯別電灯	００
	Eeらいふ	０２

契約番号	時間帯名称
００	0 深夜時間帯 Aゾーン 7 昼間時間帯 Bゾーン 23 深夜 24
０１	0 深夜時間帯 Aゾーン 8 昼間時間帯 Bゾーン 23 深夜 24
０２	0 深夜時間帯 Aゾーン 7 朝晩・リビング Bゾーン 10 昼間時間帯 Cゾーン 17 朝晩・リビング Bゾーン 23 深夜 24
０３	0 深夜時間帯 Aゾーン 8 朝晩・リビング Bゾーン 10 昼間時間帯 Cゾーン 17 朝晩・リビング Bゾーン 23 深夜 24
０４	0 深夜時間帯 Aゾーン 7 朝晩・リビング Bゾーン 9 昼間時間帯 Cゾーン 17 朝晩・リビング Bゾーン 23 深夜 24
０５	0 深夜時間帯 Aゾーン 8 朝晩・リビング Bゾーン 10 昼間時間帯 Cゾーン 17 朝晩・リビング Bゾーン 22 深夜 24
０６	0 深夜時間帯 Aゾーン 8 昼間時間帯 Bゾーン 22 深夜 24
０７	0 深夜時間帯 Aゾーン 6 昼間時間帯 Bゾーン 16 ピーク Cゾーン 18 昼間時間帯 Bゾーン 22 深夜 24
０８	0 深夜時間帯 Aゾーン 7 昼間時間帯 Bゾーン 16 ピーク Cゾーン 18 昼間時間帯 Bゾーン 23 深夜 24
０９	0 深夜時間帯 Aゾーン 8 昼間時間帯 Bゾーン 16 ピーク Cゾーン 18 昼間時間帯 Bゾーン 24

■沸き上げ確認を停止する場合



台所リモコンに右の画面が表示された場合、
下記の手順に従って、再度、試運転を行ってください。
①電源を「切」にしてください。
②タンクが満水か確認してください。
また、温度過昇防止器が作動していないか確認してください。
③9-1 項「タンクを満水にする」を再度、行ってください。
④電源を「入」にします。
台所リモコンに「試運転ナビ起動中です　お待ちください」を表示しますので、
再度、試運転ナビによる試運転を行ってください。

9－4　手動操作による試運転手順

手動で試運転を行う場合は、下記の順番で試運転を行います。

(1)時刻、日付の設定

(2)電力契約の設定

(3)沸き上げ確認

9-4-1 時刻、日付、電力契約の設定

①台所リモコンの「メニュー」ボタンを押します。画面表示が「メニュー設定」画面に切り替わります。

②「▼」ボタンを 4 回押し、「初期設定」が選択されたら「決定」を押します。

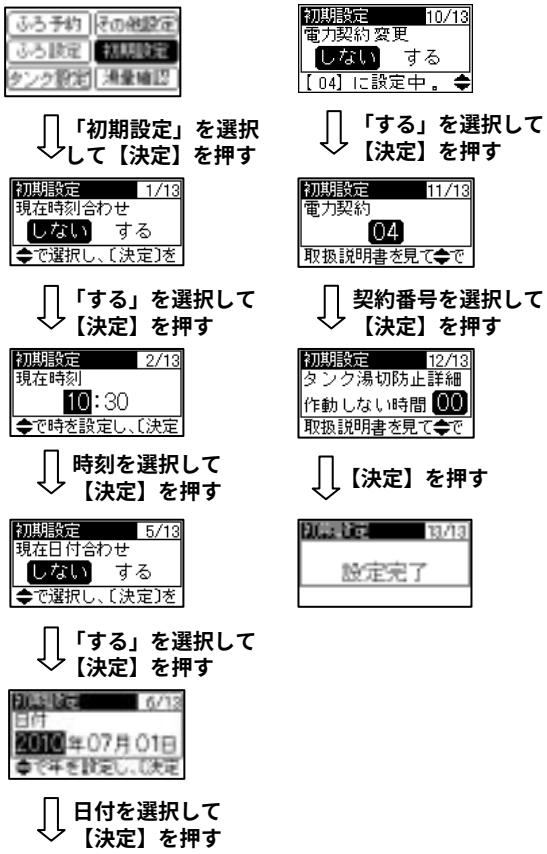
③「現在時刻」設定する画面表示になります。「時」「分」の順番でそれぞれ設定します。(「▲」「▼」ボタンで選択し、「決定」ボタンで決定します。以下の操作も同様です。)

④「日付」を設定する画面表示になります。「年」「月」「日」の順番でそれぞれ設定します。

⑤「電力契約」を設定します。電力契約選択時、画面に表示される番号と電力契約モードは P18 を参照してください。

⑥「タンク湯切防止詳細」の設定画面になります。そのまま「決定」ボタンを押してください。
「タンク湯切防止詳細」詳細については、取扱説明書 P16 を参照してください。お客様の希望で変更する場合は、変更してください。

⑦台所リモコンが通常の表示に戻ります。



9-4-2 沸き上げ確認

台所リモコンの「沸き増し」ボタンを押して、タンクの沸き上げを開始します。リモコンに「沸上げ」「少」が表示します。

※据付直後は契約電力が「時間帯別電灯契約」か「深夜電力契約」のどちらであるか自動判断するために「沸上げ」「少量」の表示でもタンク全量を沸き上げます(タンク休止を設定してもタンク全量を沸き上げます)。また、時間帯別契約でも電源を入れてから 10 時間は、「沸き増し」「全量」は設定できません。

■沸き上げを開始しないまたは停止する場合

台所リモコンに【Er04】が表示される場合は、タンクが満水になっていません。9-1 項に従って、タンクを満水にしてください。
また、【Er74】【Er75】が表示される場合は、温度過昇防止器が作動しています。温度過昇防止器の作動を解除してください。

９－５　正常動作の確認とお客さまへの説明

取扱説明書を使用して、下記の確認を進めながらお客さまに説明してください。

①各湯水混合栓を開いて流量が充分あるか確認してください。お湯の使いはじめや入浴時は必ずお湯の温度を指先などで確かめていただくようお願いしてください。

②台所リモコン、ふろリモコンの動作を確認してください。
リモコン設定項目を、お客様と相談して適切に設定してください。
（沸き上げ温度、給湯温度、ふろ温度、ふろ湯量など）
給湯温度が「低温」になっている場合は、「低温」以外の設定にしてください。

③現地施工のタンク専用止水栓の位置と操作方法を説明してください。また、断水時には機器保護のためタンク専用止水栓を閉じるようお願いしてください。

④タンクの排水方法を実際に行って説明してください。製品の配管施工状態や脚カバーが取付けられている場合、排水バルブのカバーの取り外し方(例えば右にずらす)について説明してください。

⑤逃し弁の機能と点検方法を実際に行って説明してください。また、排水栓を閉めていても、沸き上げ中はタンク排水管より少量の膨張水を排出すること**を説明してください。**

⑥漏電遮断器の動作確認方法を実際に行って説明してください。

■これだけはお客さまに説明してください

●工事説明書に基づいた工事が行われると思いますが、据付条件などにより多少異なっている場合は、そのポイントを説明してください。

●配管のネジ切りなどに油を使用した場合、しばらくの間、給湯専用蛇口や混合栓から油やよごれが出る心配があります。その旨説明してください。

■お願い

●取扱説明書および工事説明書は、必ずお客様にお渡しし、保管をお願いしてください。

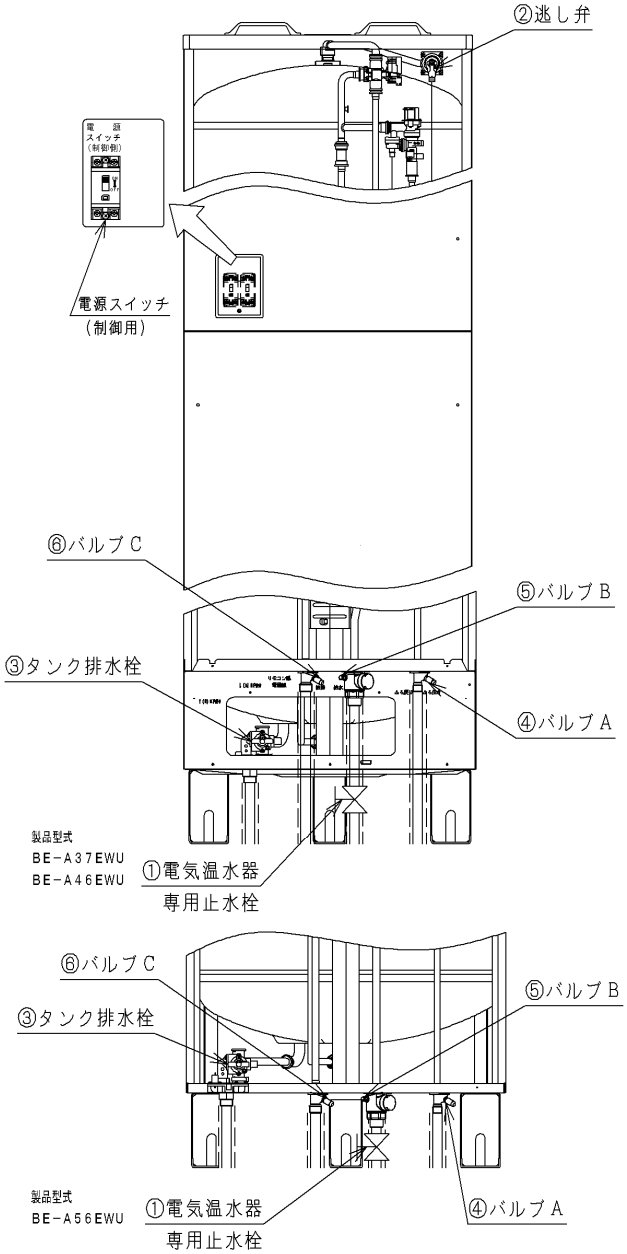
●試運転後、すぐに使用しない場合は、電気温水器の電源スイッチ 2 ヶ所と元電源ブレーカーを「切」にし、タンクの水を完全に抜いてください。

●凍結のおそれのある地域では、据付から入居まで期間がある場合でも電源スイッチを切らないでください。電源を入れておくことができない場合は、10 項の「水抜き要領」にしたがって、タンク内の水を完全に抜いてください。

●本製品を長期間安心してお使いいただくために、3～4 年に一度、専門技術者による定期点検を実施してください。

10. 水抜き要領

(1) 電気温水器の電源スイッチ(制御用)のみを「ON」にしてください。
(2) ふろリモコンで給湯温度を「40℃」に設定してください。
(3) 浴そうの水を全て抜いてください。
(4) 電気温水器の電源スイッチ(制御用)を「OFF」にしてください。
(5) ①電気温水器専用止水栓を閉じ、②逃し弁のレバーを上げ、③タンク排水栓を開いてタンク内のお湯を排水してください。
(6) タンク内の水が全て抜けたら(約30分～60分)、④～⑥の水抜き栓を開いて配管内の水を全て抜いてください。
(7) 全ての水抜き栓から水が出なくなったら、②逃し弁のレバーを下げ、③タンク排水栓を閉じ、④～⑥の水抜き栓を全て閉じてください。



～ＭＥＭＯ～

チェックリスト

据付工事後は、下表に記載したチェック項目を確認してください。
不具合があった場合は、必ず是正してください。(機能が発揮できないばかりか安全性が確保できません)

据付け環境

判定		工事説明書記載ページ
□	①水道水を使用していますか(井戸水は使用不可)	1
□	②給水圧力は 0.2MPa 以上ありますか	7
□	③据付場所は雨や雪が降ったとき水につかったり、積雪で埋もれたりする場所ではありませんか	4

据付け状態

□	①電気温水器の脚がアンカーボルトで正しく固定されていますか	5
□	②床面は電気温水器が満水時の重量に十分耐えますか	5
□	③電気温水器のメンテナンススペースが確保されていますか	4
□	④火気・引火物・可燃性ガスは近くにありませんか	4
□	⑤据付床面の防水、排水工事はしてありますか	5,7
□	⑥２階以上へ設置の場合、転倒防止の為に上部は固定してありますか	5
□	⑦外板に傷、変形はないですか	-

配管のチェック

□	①電気温水器専用止水栓は給水配管で操作の容易な位置に取り付けられていますか	7
□	②ふろ配管にフレキ管を使用している場合は片側 0.5m 以内になっていますか	6
□	③浴そうのふろ接続アダプターは別売純正部品が付いていますか	8
□	④排水口空間(50mm 以上)を確保していますか	7
□	⑤給湯配管材は耐食性、耐熱性に問題ない材質ですか	6
□	⑥排水管材は 90℃の温度に十分耐えるものですか	6
□	⑦接続部から水漏れはありませんか	16
□	⑧凍結防止・保温工事は適切ですか(各配管に凍結防止ヒーター・保温材は巻いてありますか)	9,10
□	⑨配管は風雨、直射日光に対する防護がしてありますか	-
□	⑩逃し弁のレバーを手で開閉し、放水､止水が正常ですか	20
□	⑪全ての給湯栓と混合水栓をひらいて各蛇口からきれいな水が出るのを確認しましたか	-
□	⑫各水栓、給水継手部のストレーナを点検しましたか (ゴミが入っていると湯の出が悪くなります)	16
□	⑬各配管は指定された配管径、配管長になっていますか	6
□	⑭配管途中に無理な配管によるツブレ、曲がりはありませんか	-
□	⑮シャワーはサーモスタット付のものが使用されていますか	1,7

電気工事のチェック

判定		工事説明書記載ページ
□	①電源は単相 200V ですか	11
□	②電力会社との契約は時間帯別電灯契約または深夜電力契約になっていますか	11
□	③電線(ケーブル)の太さは適切ですか	11
□	④200V 電源ブレーカーは取り付けてありますか	11
□	⑤200V 電源ブレーカーの定格は十分ですか	11
□	⑥200V 端子台のねじは確実に締め付けてありますか	-
□	⑦アース(接地)工事は D 種接地工事が行なってありますか	12
□	⑧漏電遮断器の動作確認はしましたか	20
□	⑨リモコンケーブルの接続は確実ですか	15
□	⑩リモコンケーブルは電源電線に交差、近接していませんか	13

その他のチェック

□	①電気温水器を満水にしましたか	16
□	②電気温水器周辺や配管からの水漏れはないですか	16
□	③逃し弁のレバーを立てて排水栓を開いた時、排水があふれ出ることはないですか	-
□	④正常に沸き上げることを確認しましたか	19
□	⑤電力契約モードの設定はしましたか	18
□	⑥湯水混合栓からの流量は十分ですか	20
□	⑦漏電遮断器は切りましたか （試運転完了後、すぐに入居しない場合など。ただし、凍結の恐れのある場合は除く。）	20
□	⑧試運転完了後、すぐに使用しない場合は電気温水器の水抜きを行ないましたか	20
□	⑨お客様への取扱い説明、リモコンの各種設定を実施しましたか	20
□	⑩試運転は正常に完了しましたか	16

＜販売店、工事店様記入＞

店名		電話番号		担当者名	